

友古集

特別
14
696
20



696
20



鼻紙子系志
八首は清瀆の共に出る海を
海に波羅波のいふ
のりもあを出さすあのみか
海に波羅波のいふ
いふは海に波羅波のいふ
海に波羅波のいふ
海に波羅波のいふ



[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

半... 古... 山...

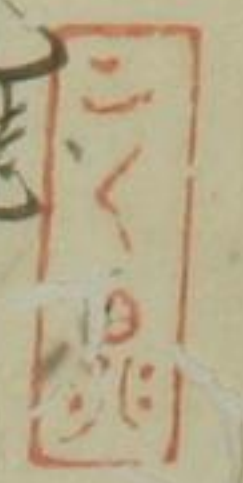
まの...
まの...

まの...

まの...

元王氏子

守こく元



○元年久具因... 此正との... 早春の... 井上作... 根... 彼作... 帰... あ... 因... 子... 和...

東照宮ノ別當權僧正珍祐以寺ヲ造立ク
寛永十八年第一世珍譽法印之時東
山禪教房并二造城坊家来ノ地ヲ移他所
從西山比奇ヲ引ク用金ハ從
將軍家賜之尾別
東照宮別當之故ニ尾別御代々之宿坊也
本書依破壞當沈第一十五卷權大增都
法印道祐改之

○日光山繪像起筆之目録今書
新宮町内陣内之宮日増沈ニ有ク
平日一見ク

第一卷
一 法皇宸翰

二 九條根政輔實公

三 初司少實白兼兼公四德大寺右大將公全公
五 東園寺中納言基長公六 少内大臣通誠公

第二卷

一 大大臣綱年公
二 醍醐大納言昭王公
三 日御中納言輝光公
四 武公小路少宰相實德公
五 就宮尾大納言隆長公
六 三宅沈少大僧正房演

第三卷

一 妙法沈亮延親王
二 少田少納言重條公
三 風早宰相久長公
四 外山少納言光顯公
五 六條中納言有友公
六 兼沈勇昭親王

第四卷

一 近衛少掾收家兼公
二 中沈少中納言通躬公
三 石倉中納言具備公
四 中山中納言兼親公

書を交と列せしむる物くえれは、
死するは又と云れし事ありとて今も
今も物くえしを全る事ありし事
一、由山園の事、代も山をいふ
をいふわが事とて、諸国里人談、
あり、東神より、里より、
長一丈、人幅、人より、
上、あり、むら、い、石の、
後、く、上、より、これと、
新、の、名、性、と、い、上、古、
ふ、本、命、か、し、き、り、と、
物、つ、る、より、礼、れ、れ、め、
○此、別、より、口、り、じ、と、
と云、教、めん、と、こ、も、
の、ド、こ、つ、お、う、ケ、コ、
○ワ、タ、長、と、下、り、し、
ま、こ、こ、つ、お、う、あ、ま、
牛、込、津、東、飯、橋、次、
粗、切、旅、と、い、う、
か、る、り、く、ら、ま、こ、
八、代、目、垣、園、山、
要、別、定、洋、居、士、
明、和、九、三、年、六、月、三、日、
辞、を、
そ、人、り、旅、の、と、も、
明、和、五、戊、子、年、四、月、亦、日、

と云、教、めん、と、こ、も、
の、ド、こ、つ、お、う、ケ、コ、と、
○ワ、タ、長、と、下、り、し、
ま、こ、こ、つ、お、う、あ、ま、
牛、込、津、東、飯、橋、次、
粗、切、旅、と、い、う、
か、る、り、く、ら、ま、こ、
八、代、目、垣、園、山、
要、別、定、洋、居、士、
明、和、九、三、年、六、月、三、日、
辞、を、
そ、人、り、旅、の、と、も、
明、和、五、戊、子、年、四、月、亦、日、

人日由名残のこゝろに死すの後
尊号のむすむすの御代

青松院身山素翁人師
安永八年丁酉土日

春由や尊号の末くは法号をきかす

天保四年癸巳二月九日

梅原氏春相埋幹重子

自以四歳男子俗名青木初太郎

西白く思ひのまゝに世にゆく

くらぬ強くわくまゝに世にゆく

九代目白田三郎左衛門忠真

外つりき父の公孫や女前丸

天保四癸巳年七月四日

貞操院玉室智珊大師
我田保泉娘

谷中天王寺

友之くわつていかにり夕陽

春當草恒夏

王子福多

苗代や花鳥の蹴の川つぎ 古懐石

乃げりりよ花の花梅のまらむ哉 古懐女

おう京平塚明神門

せいのまをくはるあまの丸

瑞瑞屋佛光

日暮の内書こそ奇

まことちよとよかしくこころ山張

わう一寸と目いそるふれ

正 落卷蜂満

春のあきあそびの煙のまはれ本重授
りまわりの石とていふ

思ふふり

寛政三月朔日

宋の夕に松の葉もりの影あそび

こころとともふまを先夜の月

信清秋既以興也

ちくらそや月下帰る人のこころ

東園舎羅文

文政七

著作堂馬琴書

王子石屋并天

物御春のまじりてよもきねの

谷のそとよりそよのこころ

玄米三印丹書

同編あり

かくとくしを以のるくひあれ夜會任

かこくらふぬニソのともいふ

千種庵相解

文化九年丁卯申夏

音好目白

うゑこれ及しぬまのおけり

かこひまぬくめさとめうら

山邊三郎

文化十三年丙子九月十日
孝子松陰建

日書

秋のくはれは、きりぎりすの音

二毛東屋后榊柯

暁のゆふが、こぼれつゝ

半喜堂后静里

あつたは、いづれもなき二味

せのうまきと、はなれぬくら

柳屋后之

文化元甲子年正月

いづれもなき、月もささる

花もささる、くらきれぬせ

四月山人

一鳥

蓮の香や、水の花

秋風の吹は、流るる水

はと、まは自由、自立、夢里

ゆや、三里と、ゆや、二里

葉梅庵つゝあり花

糸のの、くまよ、念の光のもと

三世月島と、亭就生

世の、つゝ又、光の、もろみ哉

嵐高居士

宝永四末、茅葺、如建之

いづれもなき、つゝや、山の花

とらこち人十日とくらららん

水天宮就係改重

月花うぐれすくす夜のうささ

あさどちふるま 万葉のあささき

汗田原田角字解

日言し水津妙隆寺門

月夜うぐれすくす二見哉 秀谷

日言養福寺

あさあさとこのそすはとの心ゆく

いふふとちふるま 万葉のあささき

奇瀆ゆえ

未抄マリハつれくとの心ゆく

直に房置え居士

日光御成街道 川口宿名光寺

八九万のうぐれすくす 万葉のあささき

目玉ひさく塚

其むすいさく塚や 万葉のあささき

東都芝浦暎堂雪野

日言養福寺

藍蠟の色あかりのそらに 万葉のあささき

月のまぶさのそらあかりのそらに

進教院精養軒吹居士

文化土甲戌三月晦日

星月宮真近

万葉の物とぬれ 万葉のあささき

何とくひいふ袖入り守

芝田金山湯

文政三庚辰十月

芝田監了 俗名張勢右門

千騎ヶ谷公福云

春人の歌 入る茶の水暖 風車

堀之内

花も実も妙なり 遠く竹俣水

くの井桁 白くしらすも

月宿廻り山陽堂

稲妻や 下をくまを 家上川 新井

浅草金山

何と云ふも 向ふおとく かの山お竹

如來庵の井 奥別入之聲

後田女系男

よの中いまり 籠勢 人の歌 兎堂

文化十四年正月

あさくらのうぐいす けしき ちの云

黒米多持経

浅草系大臣門 系人全剛 此中

夕月 念ふまじ 叶の下札

祇名の朝 唱をむ 入調子笛

無角坊存生

監金 齋 梧月信士

文化丁申中 初十四日

俗名 跡次長次郎

新より 系連中 系

後集侍所山聖天

あまれとハチ紙かく人もえよ
ま川ちの山にみはくことのまふ

大田茂隆入札

山谷本姓守

あまのいらきよめりこころをわこあときえんり
つきのびくりのあまの山のし

本新巻井三三

常やーい(わ)りしき松の戸
の物や木の方のりまのこへふ
仲ははれれもくまのし春のま
若葉のゆる石に初るく言のぬ
春風やちりし何れまのし海
三度

新巻き月の流や林の物

赤月高山呪
ふ水ふ子春

後集巻山

辞也

嘆きを教る花の流もや昂是より

松山白子

病よのいとも白をくくおほく

明けの星と雲と交のあり女蓮香

後集巻山

あまのまなくわらうきうんせに悟あり
人をま川ちのやまとことのまふ

塩田保監白

ひくくまふり辞堂をこしきけんのく同

貞二月天收四年丁巳

四月八日新がし

山色を侍次

月出ふらぬ波うを乳山 丑町

天明元世年丑月

若とあふふり多川のまへ時多 貞二

寛政二庚戌年丑月

本利折しむ村法性寺妙見地中

美さ先とるれ交あしらすれ井地

天保八

あつきのる。松入若りへ病の傳 比也坊 秋香

天保三

せハ花に客くれ杖ハ旗むく 拜堂 千健

文收五

山里へ物のまさと申さるる 黙齋居士

小金採園居

辞色

打菊比のめくさふゆしと竹本の

松子扇のうらとまめめ成

竹本紳太史

天保四年丁巳

本利折井戸天海宮比

塚の名の園東と忘れぬはくの哉

玉光

くも先年不承に枯くらぬ迄年々うすび
「り生じく妙花をさうさうせうす
漸くさう物の極にさうりけ
○先年先年と多諸とし何あれし
トら

大日堂内

長宗とや花のまじり多のる

竹玉懸たきぬ所代の條きや
高堂八世共り奄泰

東為飄る才と

會海の淵

みよりりい云きりくもふり

ち井高 藤太

四毛宛奉敬と

刑を以てとて云の峰

草石

赤那小く様きり海ヶ

くもさうくい二千入や

雪中「菴 蓼

宝曆十三癸未

十月下旬

東辰

谷表 舌石

いん先ヶ既ニ云可付と

山城 宇平

沈つ

享和元年 白年十月

鹿江備金力人
卯力入

月日

○若王子流のまことあり千種山に城の写

正三長有功郷

若赤さうまの流のちり系され

花のにしきとたけり

○中平切町園遊中流の言を昔の園路に幾代

いとはとく二種ありある代はく人の知るま

く家、このぐくは流しとく人くありや

所謂石所は也きし移り周年とましく考路

とく

○城の秀向は流眼のゆえに祖改と節中川

果の祖父は流しとく口くはとくは

こえぬは流しとくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

中にある人の云り、早くくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

流しとくは流しとくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

とくは流しとくは流しとくは

○ア、い、ま、あ、り、ハ、ま、り、文、を、ま、古、す、

乃しらんかんとく又の九丹ありて繼ぐもあ
榮とめん歌りしときぬしうるは毎年のつ
ゆに林氏吐月房ニ多のり

鳥の巣や海老の尾のそとく
と静也と吐しぬ有く交りぬ

○若の酒月末の八日はより病のそりてん麻
やうしうひしあわは初しの日のおひま
あふのあざは終えまうりあひぬ御舞と
あふつすあふとあは作あども若のあきあると
とまひやりとあはれもかんご油とけりぬと
かど月の八日のツル城あは鏡見守とむらひ
なりぬたさこの御静也とま首とのこしあふ
う

あひしやくのまよひは又ふありは
ねちり末のあふさあは流流

○亥年鏡月のあはるの川たのまきり清水
道りく不図の油と米のそと白物下
貞徳大徳の人とる

人日

不図

春ふもや根さの草山と若葉
又甲辰とくこの年の春香花屋のあはと米
本花園の号とく買あはて幕府時佐の徳士と
俗太田五郎と称不能諸はあしととさ
念ひくしうるあは入る

えし花のあめらふらり山年
入あひあうとあふさの産

○元年 日光御成街道 岩槻迄とけりし 内い色の
そりしとてなす書付とまきぬ

○大田道 九城廓の弁名宿の入口よりたかきり元城
よりありし今も三人ほどの溝とありのよれは所と
三年めお八国よりよあまは作付しと名宿のよれ

○名の入と六元二町ほど先 大田道漢の御成跡と云
地あり少きしとて小籠ありしとまねりは所より大田
道の傍に一急一目子尾ありしとめとて 国入の君は
まきえちありしとて 石子のうしとて 西原と名宿の山より
えあり石の口尾ありとて云下ハ其のうしとて 菅沼ありし
と名宿の本陣とつとむしとて 西原と名宿の山より
は所と田と云はしとて 松と名宿と云はしとて 又時道

小柳と名宿とて 松と名宿とて 菅沼と名宿とて
えい色と名宿とて 菅沼と名宿とて

○ガウラ村中はとて 九ヶ峠と名宿とて 菅沼と名宿とて
小溝村より名宿とて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
いけりしとて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
の名宿とて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
菅沼と名宿とて

○三ボイ町は 小峠安寺 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
の池に 洗水築山ありしとて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
城裏えりしとて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて

○石のちとて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて
い川と名宿とて 菅沼と名宿とて 菅沼と名宿とて

裡 海島をまはしうらぎとあり

○所のもはたりくは玉峯山頂の寺といふ大寺ありつ
か二江流の林あり境内のたりこ大園家の石牌
一本あり石の崩れ作板敷あり^祖石橋の城に作移路あり
大楠 同奥より 同長男義隆と三人の墓をまよふ
誌ありし石牌の後三日れ身ゆきまよふ 古井の記を
名づきし作板敷と云傳ふ^{あり}石のひきこはし補と
著ある史よりく云し義隆の城内の車橋といふとく
初免のうしひ^{あり}た^{あり}旅人と云入^{あり}法寺^{あり}輔の法名と
玉峯山道合上住と号す^{あり}元^{あり}院の宗基と申玉峯山と唱
為寺と名稱も^{あり}分^{あり}れ^{あり}の^{あり}鞍^{あり}あり^{あり}竹^{あり}物^{あり}と^{あり}り^{あり}網^{あり}あり

鞍 七年 卯

永正 申 壬

鞍 踏 上 之 巻



○たかト^{あり}ひ^{あり}子の^{あり}安^{あり}及^{あり}ま^{あり}茂^{あり}の^{あり}苑^{あり}あり^{あり}ま^{あり}月^{あり}の^{あり}詠^{あり}と

海 邊 言

仲つ^{あり}月^{あり}や^{あり}し^{あり}の^{あり}ま^{あり}り^{あり}く^{あり}よ^{あり}は^{あり}あ^{あり}く^{あり}
ある^{あり}庭^{あり}の^{あり}ま^{あり}月^{あり}つ^{あり}あり^{あり}あり^{あり}あり^{あり}

杜 町 言

ぬきこも家録系系しとく代々執事の徳と初と
味とよふ言ふ事ありとく家歴新統後の師範と
養ありとく國名とちりめとく一帯中の向は古
むは統古のいんがゆふこふけりありとく文正の古
禮あり代々の老後十三歳と年とを時加乳のふ
一帯子元孫柳を他る事との也しきとく一帯と
後段の念法と考ふ隆行しきをもぬ十八歳と成ぬ
但馬事どの馬帽子祝とをされを發たゆとく里
くえきる是古より表尔家の古後とよ

○香川系樹の分

あこ女

おれしきい水のいののうきとよふ
何ういふる教とこのまん

○住取種義君御持前の高統美徳と節を度果の
家い先世名ある人より天正の徳創設年の里へ
或士の道とまり世の人として閑居されしよし
同文の正正以後流記とく家を浦の貴理又今
つるえり孫しきと字

永代より後しき家を交るる

金とてアロ

多作が町南町赤澤
一の澤はとる居る

右後方海國今の子或あふ永代より後中刊
家正也但天下一回く住取申きことおひお
屋敷やらん中備しきいりしきとく誰とく
も何うとくおあふはと何故かふおきんきよ

一ノ方 永代のいふまゝに後より
懐の輝

五正八庚年三月廿

夜六下

永代より海へ中

合三三

多坪本町南町東隣
長花うらとあり目
長花うらとあり目
のわら

右様方 要月海子世百本目 永代意治中判
實正におは座敷及ふと凍くはたり誰より道
礼中より名方敷か着何礼中名方とて
横ふらぬさんまよのたて 天下一回く任政入
りしは座敷におわくか入中名方かめを永代

活券後りてたのめ件

慶長七年七月二日

永代意治中名方敷

合三三

右様方町南町西二丁目
浦(町)外とのとく東隣
ゆくまへ御隣おちんこ

右様方 要月代小判十両 永代意治中一実
正之能天下一回く任政又西国に伝
候日社に候は長花を敷付おの凍と遠
中より名方敷か着何と中より然りては判
しりともお氣件に候は後永代意

おせんし
真田玄仙
其並七島

券之付り

元和七年
國八月廿

在友半五の皮

永代賣渡中家屋敷

收年申所由情ありと西口言
を志しうへ八名に東隣に東口と云
不度と隣及西隣に別を友

半五の皮

右様名要月全子小判百枚と永代賣渡

ありと申所

拾五の皮

二五の皮

新丁中

私助

河小五の皮

中一実正しあり諸... 五通右左友おわく邊礼
中一のり控名... 誰とくも何と申
可相川く加別... 永代賣渡券付り

大田

大田流

子長

松岡

安藤

中

友次

友

在友半五の皮

永代賣渡中家屋敷

一有年... 永代賣渡中家屋敷

一休和尚の家統後小松院之皇子之自稱嵯峨坊
肆在雲子又自稱天下老和尚永承元年甲戌生文明十三年
年五十八歳入寂

権入納言公俊の事

祝言

交遊のやまと言の系千早梅

并代之るゆきまやけとき

○花吹の東台田之社内ふ千余別之国々或四の
社と云ふ一祠あり既ニ尾陽ニ二百二十社あり
○洛東あぐが谷田為丸志あり

福富田為丸

妻天保六乙未十月六日没戀友建之

○下瀬たゆふカギモトと云村あり性古は河の名
流たゆふ初る珠珠草の種ともう降玉流とも
中る為國たゆふの社をドめ今もやととと
細草の弁ニ塚あり

○此別如香山之水流の名ありと云れざり時た
きこと彼地よりケエトと云ひいひの川の例より流し
えれがみぎや石のつらひ死人の之流を時屋系
ふたきんしをとあぐることを國の人をいふ

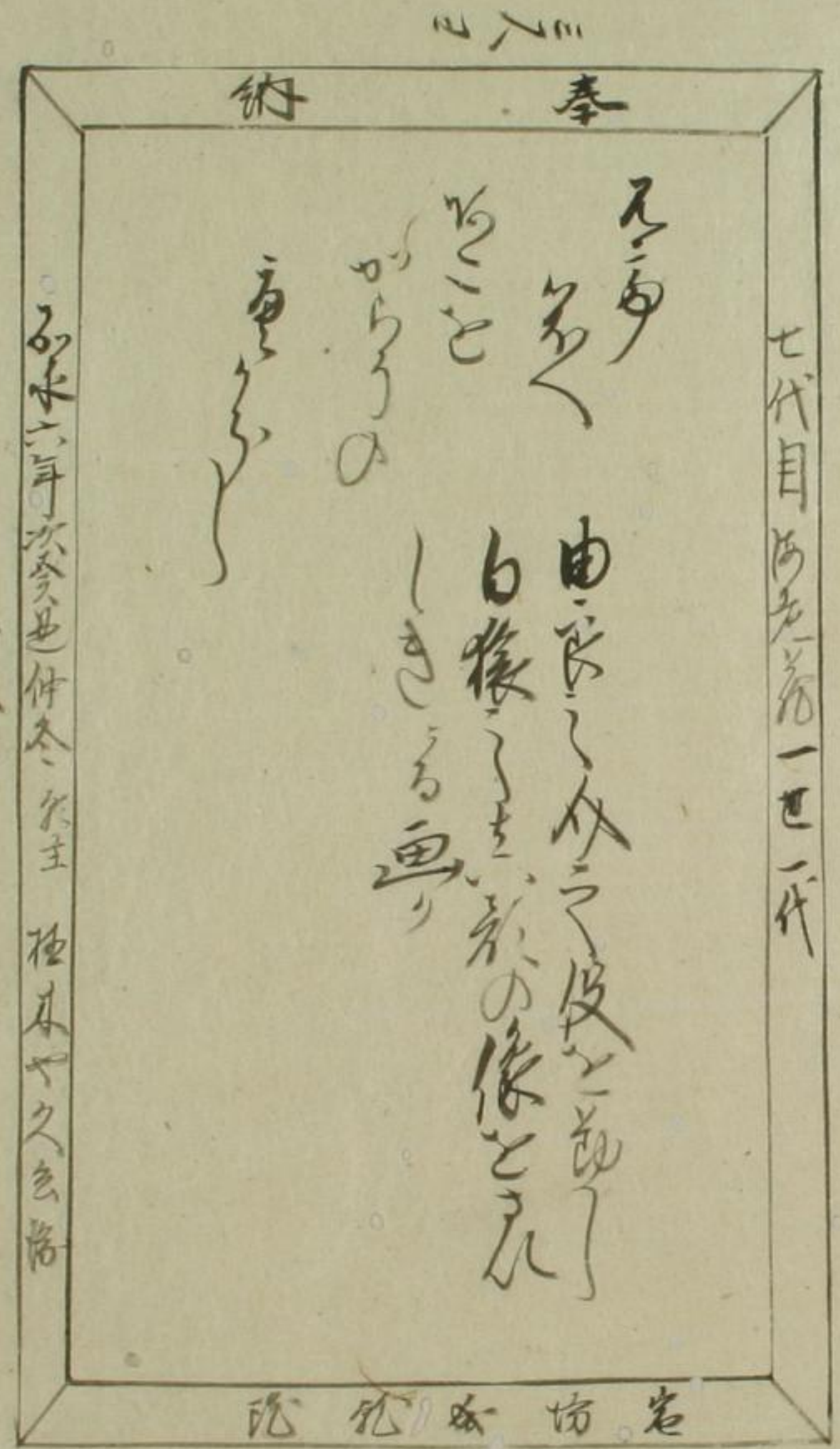
○此あり月川のセリニ流の分とよませられ
ときやつらねがとよあありきねたこがすく
うたれん

庭石 冬物 弓松杖

あきまの庭石みよの庭物

くねるをたしき夕のらん
 鳥羽玉のやまもあやめはらふ
 庭のとしくもあきらきさくる
 隣より梅のあけや物ささく
 あきさるる春てちせり
 あきさるる代へんすくも松の夜
 たがしときこのしらわらし
 ふとこつん星を松えしきありあひく
 葉といのり君のけしえ
 ○日光あたる中庭あきく
 葉毎あきこの大草葉
 よこかぶとさく多くあきく
 葉を本すくあき
 葉はとくもさきあきりて
 葉をる製
 蒲の穂よく似る品

○江東尾水手執音堂の五色紙
 白く白く後
 筆



みよ二年次参世付冬 名主 極本や久名路
 又又ヨ

○先年成人のえん
 術の徳丹と堂上方
 名主

一将のまじりしまき木（木）に云りりはいんざくと未先
くれくしと云しすきまらわつりのえととる百
そすんらとくしとりのうれしき今こりはれは
○三幸樹ハ香川允後書と云るしゆもつ人たと云えぬ四国
がさの富中の二男とくり毎に梅戸と蔵と次そのち
徳大寺の次ハ香川家と養子と師のうらねし
天保十三年丁酉三月廿七日免辞也

いのまの松浦の梅咲ふりり
とらこしとれとくハとくめぬ

○宝晋高其角ハ秋生也ちの銀録（銀録）と云とハ合漢之
更ニと角の角ニ

物々香や深ハ秋生也ちの
とくび



